

平成30年度 総社小学校 学校評価書資料

学校経営目標	具体的計画	30年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の教育の充実	【やさしい子】 ①道徳教育、人権教育、だれもが行きたくなる学校づくりの取組を充実することにより、児童が気持ちのよいあいさつや思いやりの心を生活の中で実践することができるようにする。 (総社を愛す子供)(心優しい子供)(礼儀正しい子供)	①進んであいさつができていているという回答が85%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【人間関係・特別支援教育】	教職員:95% 保護者:81% 児童:89%	A	・達成基準に到達しているが、2学期が始まって全体的に元気がない。総社小のあいさつのため「大きな声で・進んで・顔を見て」を意識できるよう、クラスで確認し指導していく。 ・10月1週目に「あいさつ強化週間」があるので、児童会を中心に全校であいさつ運動を盛り上げていくようにする。	教職員:95% 保護者:82% 児童:92%	A	・日常の指導やあいさつ強化週間の取組で、児童の意識が高まってきたのではないかと。 ・保護者の数値が少し低いのは、学校外でのあいさつがあまりできていないからだと思うので、家庭や地域でのあいさつの声かけをしてもらえるよう、PTAと連携し、お便りを出すなどして意識を高めていきたい。	・自己評価は適切である。 ・アンケート結果と同様に、実際に、元気に挨拶している児童の様子は見受けられる。今後は「元気」かつ「自発的」なあいさつ運動を取り組んでほしい。 ・あいさつの基本は家庭であることから、PTAの指導部を中心に「あいさつ運動」などを継続して行い、全ての家庭においてあいさつ習慣が身につくよう、学校・家庭・地域が連携した取組を継続してほしい。
		②思いやりの心をもって生活しているという回答が85%以上ある。 (児童、保護者、教職員) 【人間関係・特別支援教育】	教職員:100% 保護者:96% ○友達への優しさ 児童:95% ○友達の優しさ 児童:91%	A	・現状の取組を継続しながら、さらに学級内のピア・サポートやSELの充実を図る。 ・児童同士の呼び方や先生が児童を呼ぶときの呼び方は、授業中は「さん」、休み時間でも呼び捨てにしないなど、親しい仲にも礼儀をもって呼び、人権意識を喚起できるようにする。	教職員:95% 保護者:96% ○友達への優しさ 児童:94% ○友達の優しさ 児童:93%	A	・児童同士の呼び方は、家庭・放課後児童クラブ・習い事等の場で固定してしまっているため、なかなか改善されにくい。しかし、教員は常に意識する必要があり、最低限、授業中は学習規律として「さん」を付けて友達を呼べるように指導を続けていく。 ・児童は、友達にもらったことには気づきにくく、されたことは意識に残りやすいので、SELで友達との関わり方やその場にふさわしい話し方等について指導していく。	・自己評価は適切である。 ・友達への優しさの項目が高いことは非常に評価できる。これまでの取り組みの成果だと思うので、改善策にもある児童の人権意識を喚起し続けてほしい。 ・ピアサポートの意識を学校活動の取組だけでなく、普段の生活の中でもこれまでに以上に意識づけられるように指導して欲しい。
		③誰もが活躍できる機会を作ったり児童同士のつながりを強める活動を設けたりしているという回答が80%以上である。 (保護者、教職員) 【生徒指導・保健安全】	教職員:84% 保護者:92%	A	・学級内で、発表の機会や協同学習、グループ・ペア活動等を積極的に取り入れ、授業の中で活躍できたりつながりを強めたりする機会を意図して設定する。 ・計画的な縦割り活動(掃除・仲良し遊び)やピア・サポート活動により、学年を越えて遊んだり学習サポートを行ったりして、児童同士の関係づくりを進めていく。 ・3学期の総小フェスティバルが1年間の縦割り活動の総仕上げとなるように意識して、関係づくりを進める。	教職員:95% 保護者:92%	A	・各学級で、協同学習やグループ・ペア活動を取り入れた発表の機会を意図的に増やしたりして、授業の中で活躍できたりつながりを強めたりする取組の充実を図った。 ・計画的な縦割り活動(縦割り掃除や仲良し遊び等)やピア・サポート活動により、学年を越えた児童同士の関係づくりを進めることができた。 ・1年間の総仕上げとしての3学期の総小フェスティバルや、6年生から5年生へのリーダーの引き継ぎを通して、次のリーダーを育成し次年度へ橋渡しをする。	・自己評価は適切である。 ・保護者の9割が肯定的に回答していることは、家庭において児童から肯定的な話を聞いている結果ではないだろうか。 ・教員1人1人が意識して協同学習を行う姿が見受けられたことは評価できる。一方で、時には、発達段階に合わせて子どもに注意を促す姿勢があってもよいのではないかと。
2 健康・体力作りの推進	【たくましい子】 ②健康教育、特別活動を充実することにより、児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに、目標を持って主体的に体力作りに取り組み、最後まで粘り強く頑張る心を育てる。 特に清掃を黙って時間一杯取り組めるようにする。 (礼儀正しい子供)	④基本的な生活習慣が身に付くように取り組んでいるという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員) 【生徒指導・保健安全】	教職員:93% ○早寝・睡眠 保護者:79% 児童:73% ○メディアルール 保護者:77% 児童:76%	B	・早寝のとらえ方が親の意識と児童の意識では違いがあるように思われるため、保健委員会を中心に、早寝についてのアンケートを行ったり睡眠の大切さについて給食時間に放送を入れたりして、睡眠についての正しい知識を保護者と児童に知らせて意識づける。 ・メディアのルールを設定して守ろうと、努力する姿が見られるようになってきた。メディアコントロールにより自分をコントロールする力をつけさせたいという目的をはっきりと伝え、メディア週間や講演会等を通じて、家庭でルールを作る意味を繰り返し啓発し、意識できるようにする。	教職員:89% ○早寝・睡眠 保護者:78% 児童:73% ○メディアルール 保護者:74% 児童:74%	B	・学級指導や保健委員会の活動を中心に、メディアと睡眠についての取組を進めてきた。繰り返し声かけや指導をすることにより、児童の意識も高まってきたが、声かけをしないと意識も低くなる傾向にあり、定着までには至っていない。 ・来年度は、より児童の興味・関心を高め、意識化を図るために、学級指導等でメディアと睡眠に関する外部講師をゲストティーチャーとして招聘し、指導の工夫を行いたい。また、達成基準をメディアと睡眠に絞ることにより、焦点化した取組になるようにしていきたい。	・自己評価は適切である。 ・子どもと親、家庭によって「早寝・早起き」の捉え方が異なることから、早寝・早起きの時間を示す、「何時間寝た」のかといった具体的な数字を示すことにより共通の認識ができるようになるのではないかと。 ・メディアコントロールは課題も多く実際に指導することは難しい。早寝早起きやメディアコントロールは家庭主体で行うことである一方、学校がルールを決めることにより保護者は子どもを指導しやすい環境になる。教員と家庭が正確な情報を取り合うために、家庭との連携をより一層意識してほしい。 ・時間のルールを決めることが大切である。時間のルールを決めることでメリハリのある生活を送ることができる。
		⑤掃除を黙って時間一杯取り組んでいるという回答が80%以上である。 (児童、教職員) 【生徒指導・保健安全】	教職員:93% 児童:92%	A	・1学期に設定した「だまって掃除」の取組を2学期は継続して行い、「ピア・サポート週間」と「無言週間」の定着を図る。 ・学級掃除も黙ってできるように、掃除場所や人数等の調整を行う。	教職員:88% 児童:92%	A	・縦割り掃除では、6年生のリーダーのサポートもあり、児童は意識して黙って掃除ができるようになってきている。 ・まず、教員が自ら黙って掃除をする姿を見せることにより、児童の意識を高めて黙って掃除をすることが当たり前になるようにしていく。 ・学級掃除については、新校舎への引っ越しを転機に、掃除場所を見直し人数の調整を行い、黙って掃除ができる環境を整えていきたい。	・自己評価は適切である。 ・だまって掃除することは大切であるが、縦割り掃除では、高学年が低学年に掃除の方法を教える機会であることから、「私語をつつしんで」掃除の仕方は教えるといった項目の方が適切ではないだろうか。ピアサポートを意識して、掃除の仕方を高学年が低学年に教える機会としてほしい。

3 確かな学力の育成	<p>【すすんで学ぶ子】</p> <p>③特別支援の充実を図るとともに、児童が主体的・対話的で深い学びを実践し基礎学力を身に付けることができるようにする。</p> <p>④生活科、社会科、総合的な学習の時間の充実により、地域を知るとともに地域に貢献しようとする児童を育てる。(総社を愛す子供)</p>	<p>⑥授業が分かりやすいという回答が85%以上である。(児童、保護者、教職員)</p> <p>【校内研究推進】</p>	<p>教職員:90%</p> <p>保護者:86%</p> <p>児童:92%</p>	A	<p>・現状の取組(特別支援の視点を取り入れた授業づくり、協同学習などの伝え合いの方法の工夫等)を継続して行う。</p>	<p>教職員:92%</p> <p>保護者:87%</p> <p>児童:93%</p>	A	<p>・校内研究(算数科)で全体研修を2回行い、全教員で分かりやすい授業づくりに向けて研修を重ねてきた。</p> <p>・今後も現状の取組を継続していく。</p>	<p>・自己評価は適切である。</p> <p>・授業中において、児童の発達段階に合わせた話し方やポイントの提示を行っていることはすばらしい。</p> <p>・「わかりやすい授業」を心掛けることは今後も継続して行ってほしいが、「わかりやすい」だけでなく、難しく考えさせられる授業も必要である。さらにステップアップを心掛けた授業展開を行ってほしい。</p>	
		<p>⑦進んで学習に取り組んでいるという回答が85%以上である。(児童、保護者、教職員)</p> <p>【校内研究推進】</p>	<p>教職員:97%</p> <p>保護者:85%</p> <p>児童:89%</p>	A	<p>・単元に入る前に単元全体を見直して、教えるべきことを教師がはっきりさせた上で指導する。</p> <p>・その日の学習内容と宿題の内容を関連づけ、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>・昨年度のデータをもとに、事前に弱点を把握して指導に臨む。</p>	<p>教職員:91%</p> <p>保護者:85%</p> <p>児童:89%</p>	A	<p>・児童が主体的に学習取り組めるように、デジタル教材や視覚教材を積極的に活用し、児童を引きつける導入を工夫してきた。児童が見通しをもって学習に取り組めるようにすることによって、進んで学習に取り組む姿が増えてきた。</p> <p>・その日の学習内容と宿題を関連づけたり、朝学習や総チャレの時間を有効活用したりして基礎基本の定着を図ることで、進んで学習に取り組む児童を増やしていきたい。</p>	<p>・自己評価は適切である。</p> <p>・「進んで学習に取り組む」ことについて、保護者は「言われなくても児童が勉強をしている」のかを見ているのではないだろうか。</p> <p>・多くの児童が主体的に学習していることは、先生方の指導のおかげである。引き続き、児童の発達段階に合わせた工夫ある指導をお願いしたい。</p>	
		<p>⑧国語と算数の単元テストの基礎基本項目(国語:言語、算数:知識・理解・技能)で80点以上の児童が、80%以上である。(教職員)</p> <p>【校内研究推進】</p>	<p>教職員:55%</p>	C	<p>・単元に入る前に単元全体を見直して、教えるべきことを教師がはっきりさせた上で指導する。</p> <p>・その日の学習内容と宿題の内容を関連づけ、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>・昨年度のデータをもとに、事前に弱点を把握して指導に臨む。</p>	<p>教職員:74%</p>	C	<p>・単元テストの基礎基本項目に焦点化したことで、テストの結果をフィードバックしながらできていないところを補充し、定着を図ってきた。</p> <p>・教員全体での評価基準のすりあわせが難しく、何度も検討を重ねてきた。一人一人の児童の学力を向上させる手立てにつながるような評価基準に改善していきたい。</p> <p>・下位の児童の学力を上げる手立ては、学年ごとに工夫を重ねてきて、基礎学力を付ける指導の工夫が行われてきた。しかし、一人一人の児童に個別に対応することは難しく、協同学習やピア・サポートなどにより児童同士で教え合いができるように指導していきたい。</p>	<p>・自己評価は適切である。</p> <p>・はじめに「基礎・基本」を徹底させ、その後、「応用」に取り組むという改善策を出していることや課題を見出していることは非常に評価できる。</p> <p>・今後も継続して、達成基準を高く設定したまま、新たに生じた課題について取り組んでほしい。良い評価を出すために達成基準を低くすることはしない。</p>	
		<p>⑨靴やロッカー等の整頓に心掛け学習環境を整えるとともに家庭学習や読書の習慣を定着させる。(礼儀正しい子供)</p>	<p>⑨靴をそろえるように取り組んでいるという回答が80%以上である。(児童、保護者、教職員)</p> <p>【校内研究推進】</p>	<p>教職員:83%</p> <p>保護者:70%</p> <p>児童:83%</p>	B	<p>・懇談などで、靴そろえの意義を伝える。</p> <p>・週に1~2回は、担任・児童ともにチェックし、繰り返し指導する。</p>	<p>教職員:73%</p> <p>保護者:69%</p> <p>児童:84%</p>	C	<p>・保護者への靴そろえの意義を伝える機会があまりなかったため、学校で靴そろえに重点を置いている意義が十分伝わらなかった。</p> <p>・靴箱のチェックがまだ軌道に乗っておらず、繰り返しの指導ができていなかった。今後は全教員でもう一度共通理解をして指導していきたい。</p>	<p>・自己評価は適切である。</p> <p>・家庭では「靴を揃える」ことが定着していない。学校でも家庭でも靴を揃えることが定着できるように学校と家庭が連携した取組を行ってほしい。</p>
		<p>⑩学年×10分+10分勉強しているという回答が80%以上である。(児童、保護者、教職員)</p> <p>【校内研究推進】</p>	<p>教職員:91%</p> <p>保護者:75%</p> <p>児童:88%</p>	B	<p>・12月の懇談や強化週間等の機会に、家庭への啓発を図る。</p>	<p>教職員:77%</p> <p>保護者:75%</p> <p>児童:88%</p>	B	<p>・家庭学習強化週間やナイスノートの掲示などを通じて、児童や保護者への啓発を図ったので、児童の意識は高まっている。</p> <p>・今年度は2学期に学級懇談がなかったため、懇談以外での家庭との連携を図る手立てを工夫する必要がある。アンケートの項目についても来年度検討したい。</p>	<p>・自己評価は適切である。</p> <p>・アンケート結果は横ばいであるが、高い目標を持つことは大切である。</p> <p>・ナイスノートとして、自主勉強ノートの掲示することは、児童自身のやる気につながり、友達の勉強方法から自己の勉強方法を生み出すきっかけとなる。教員のコメントが児童のやる気や自己肯定感につながるの、継続して行ってほしい。</p>	
4 開かれた学校づくり	<p>⑥各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。</p>	<p>⑪学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85%以上である。(保護者、教職員)</p>	<p>教職員:81%</p> <p>保護者:92%</p>	B	<p>・学年便り、校長室便り、保健便り、図書便り等の便りの発行やホームページの定期的な更新などの現状の取組を継続して行う。</p> <p>・すぐメールをもっと活用し、保護者へのよりタイムリーな情報発信に努める。</p> <p>・保護者のニーズに合った情報を発信できるように、担任等に寄せられる保護者からの声を共有できる体制を整える。</p>	<p>教職員:74%</p> <p>保護者:90%</p>	B	<p>・各種の便りの発行やホームページの更新など、今後も継続して行う。</p> <p>・情報の受け手を意識した便りやホームページの作成を心がけるようにする。</p> <p>・すぐメールの活用をさらに進める。</p> <p>・今後は、双方向の情報発信にするための取組を工夫していく。</p>	<p>・自己評価は適切である。</p> <p>・情報発信はこれまで以上に数も多く、様々な面で行っている。校舍建て替えに問われることも多い中、必要な情報が発信できている。</p> <p>・アンケート結果の中で、保護者の評価が高く教職員の評価が低いことは、教職員は「まだまだ課題がある」との向上心をもっており、保護者としては満足感が高いという表れではないだろうか。学校評議員としては、適切な情報発信がなされていることについて前向きに捉えている。</p>	
		<p>⑫いじめになりそうな事案に即座に対応し、学校での対応について保護者へ連絡や発信を行っているという回答が80%以上である。(保護者、教職員)</p>	<p>教職員:95%</p> <p>保護者:76%</p>	B	<p>・いじめになりそうな事案について、生徒指導担当に情報を集約し、学校として複数の教職員で対応できる体制を確立する。</p> <p>・学校での対応について、担任から該当児童の保護者へより迅速な連絡ができるよう心掛ける。</p>	<p>教職員:94%</p> <p>保護者:79%</p>	B	<p>・生徒指導担当を中心として、いじめになりそうな事案について迅速な対応を心がけた。学校として複数の教員で対応できる体制も整いつつある。</p> <p>・担任だけでは把握できない事案もあるので、今後も、家庭や地域、関係機関とのつながりを大事にして情報を集めるようにする。</p> <p>・学校での対応について、該当児童の保護者への迅速な連絡を心がけてきた。事案の内容によって、該当児童の保護者だけでなく、学級全体又は学年全体への発信が必要な場合の対応を考えていきたい。</p>	<p>・自己評価は適切である。</p> <p>・アンケートが実情がわかりにくい結果となっているので、アンケートの回答項目に「該当しない」を設ける等の工夫を行ってほしいのではないかと。</p>	
	<p>⑦きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域、関係機関等との連携を深め、児童の安全、健やかな成長を図る。</p>	<p>⑬校舎改築に伴う安全策を工夫し、校内外の安全確保の取組を行っているという回答が80%以上である。(保護者、教職員)</p>	<p>教職員:95%</p> <p>保護者:95%</p>	A	<p>・学校支援ボランティアなどで、保護者や地域の方の協力をさらに得ながら、大勢の目で児童の登下校を見守る体制づくりを進めていく。</p> <p>・廊下の右側歩行や運動場の使い方などのルールを徹底し、校舎改築に伴う限られた環境での児童の安全意識を高めるようにする。</p>	<p>教職員:98%</p> <p>保護者:95%</p>	A	<p>・保護者や地域のお方の協力を得て、学校支援ボランティアの数が増えて、登下校の見守りや校外学習の見守り、学習支援等に大勢の目で児童を見守っていただいている。</p> <p>・新校舎への引っ越しに向けて、校内での安全な過ごし方をもう一度児童と見直し、新校舎でのルールに従って安全な生活ができるようにする。</p>	<p>・自己評価は適切である。</p> <p>・働き方改革の中でも学校の登下校は学校の職務ではなく、地域の役割だと示されたように、登下校の見守りを地域の人も行っている現状は高く評価できる。今後も継続して行うとともに、さらに多くの人を巻き込んだ活動にしてほしい。</p> <p>・学校ボランティアの活用状況についても発信してほしい。</p>	